



世界に希望を生み出そう

国際ロータリー 2023-2024 年度
前橋北ロータリークラブ会報
2023年7月10日(月) 第1794回
会長 廣木晴久 幹事 上村哲郎
会場監督担当 小野靖浩 副委員長



◇ロータリーソング それでこそロータリー

◇会員数 78 名 ◇出席 71.66 %

◇ニコニコBOX

半澤会員…廣木会長おめでとうございます。佐藤直前会長、大変お疲れ様でした。これからもよろしく願いいたします。

上村幹事…先日、商工会議所野球大会で2.3年ぶり4回目の優勝をすることができました。私は1回も試合に出ておりません。RC野球大会は頑張りたいと思います。

樋口会員…誕生日祝をありがとうございます。

◇幹事報告 上村幹事

◇委員会報告

親睦委員会 田中委員長

野球部 岡崎会員

社会奉仕委員会 小和瀬委員長

◇会員卓話 真下遼平 会員

◇会長の時間 「私の職業 とび」

今日は私の職業についてお話をさせていただきます。私の職業分類は建設業で**鳶土木**です。建設業は2種類の一式工事、建築と土木、それと27種類の専門工事になります。私の会社はそのうちの鳶土工と鋼構造物事業をメインにいわゆる鳶職を先代から続けています。

鳶の由来は棟上げの時に梁から梁へ飛び回ることと、鳶口という道具(物を引き倒す時に、先がとがっている2メートルぐらいの棒で梯子乗りの梯子を押さえたり、材木をひっかけてひっぱったりする)が由来で鳶職と言われています。

鳶の分類の中には足場鳶があります。これは現場で仮設の足場の仕上げをする為に枠組みで組んだり、橋梁の桁の下に吊る足場、ボルトを本締めしたりする足場を作るのが足場鳶です。あとは鉄骨鳶、鉄骨造の建物、橋梁上部工。最近事故がありましたが橋梁鳶という鉄骨鳶とおなじような仕事になっています。

それと重量鳶。建物の中に機械を設置する、または解体して機械を搬出する等を行うのが重量鳶といいます。

それと送電鳶というのがあります。これは送電線の鉄塔の組み立てや送電線の鉄塔や籠に乗ってメンテナンスとかをしているのが送電鳶といいます。

それと基礎工事の杭打ち、コンクリートの打設も鳶がやっていた仕事です。それと引き家工事、建物の位置を変えたりするのも鳶の1つです。今は分野が分かれています。昔は町鳶というのが、火事の時に延焼を防ぐ為、建物を壊す仕事で解体の方もとびの仕事の一種でありました。後は煙突掃除業。今はだいぶ需要がなりましたが、煙突掃除をするのもとびの仕事でした。

私もこの仕事に就く前、本当は違う仕事に就こうと思っていたのですが、高3の夏休みに父の現場、太田市にあります日産ディーゼルの建物を建てる手伝いに行ったのが始まりでした。その時はバイト代ももらえず、教習所に通う費用となりました。



その後、高卒の3年ほど東京でフリーターをしていましたが、訳あって群馬に帰ってきました。昭和60年、信越本線烏川橋梁の現場が群馬に帰ってきて初めての現場でした。その後、コクヨ、群馬配送センター、福島橋という玉村に行く橋の古い橋を解体しました。又、大渡橋の旧橋の解体現場の一線で働いていました。

昔、橋を架ける時には最後に締結式というので金の鋸をどこかに入れるのですが、それを探した覚えがあります。何万本という中から鋸、1本を探すのもなかなか出来なかったのもので、あとで解体してどこかで見つけた人はいい金額になったのではないかなと思います。

その後、中堅ゼネコンで、今でいう派遣社員を3年半ぐらいしていました。平成4年に今の会社に戻り、その時から現場責任者という形で、栃木県南青果市場という小山の所で1年ぐらい現場にいました。現場では多くの人が怪我をしたり、鉄骨を倒したりと苦しい思いもしたことがあります。

そのあと県内だとヤマト運輸管理センターで責任者を務めました。今、とびの人がインパクトドライバーというのを使うのですが、その当時にインパクトドライバーでクラックを緩めたりするのを私が初めてやったのかなと思います。

そして平成8年に群馬県社会福祉センターというのが新前橋にあるのですが、その鉄骨建て方と足場の責任者をしました。平成9年には高崎西口に小平ビルというのがありますがその鉄骨をやっている最中に私の娘が産まれるので、元請けの現場責任者に子供が産まれるので帰っていいかと聞いたのですが駄目でした。

子供の出産に立ち会えなかったっていうのが今でも非常に覚えています。そのあと久慈文化会館建設工事というところに行きました。岩手県の久慈市なのですが40メートルの高さの円錐型の建物、どうやって建てるのか現場の所長と相談して上手く建てる事が出来たと思っています。

平成10年に1級とび技能士と1級建築施工管理士に合格をしまして平成12年に1級土木管理士を取ることができました。そして平成10年に本庄にある清掃センターで私は現場での責任者を最後に会社内勤務として現場に直接は行かなくなりました。

いまでも、打ち合わせや現場のそばを通ると昔のいい思い出とか苦しかった思い出とかを思い出します。やはりこの仕事というのは、終わった後の達成感、充実感、それと地図に残る仕事をしているのだと非常にやりがいを感じます。

でも昔からよく言われます3K、きつい、きたない、危険。本当に現場は危険でなかなか若い入職者がいなくて技術の伝承ができなくなる非常に不安です。とび職はいつの時代になっても、なくなる仕事だと思っています。これからも建設業の魅力をしっかり発信してさらなる建設職人の地位向上、所得アップをめざして頑張っていきたいと思っています。